

第10回調査分析部会 議事録

1. 日時：平成26年2月25日（火） 15：00－16：55

2. 場所：内閣府宇宙戦略室 大会議室

3. 出席者

（1）委員

中須賀部会長、五百木委員、磯部委員、橋本委員、渡邊委員

（2）事務局

西本宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、森宇宙戦略室参事官、頓宮宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

（1）委員の調査分析レポートについて

磯部委員、渡邊委員から調査分析レポートの発表があった。概要は下記のとおり。

・磯部委員からは、宇宙天気に関する日本及び国際的な状況について報告があった。太陽フレアは、人工衛星の運用や宇宙飛行士の船外活動といった宇宙活動に加え、高緯度にある送電線網などの地上インフラに対しても重大な被害をもたらすことがある旨、業務として宇宙天気情報の提供を行っている情報通信研究機構によるユーザズフォーラムを活用するなど、日本国内における宇宙天気関係者間の情報交換の場を設けていくことが望ましい旨、日本は学術界を中心に宇宙天気に関する観測や数値モデルで強みを有しており国際協力の中でリーダーシップを発揮できる分野である旨の説明があった。宇宙天気に関する観測に関して、今後キューブサットの有効活用などが検討に値するとの議論があった。

・渡邊委員からは、国防総省（DOD）と航空宇宙局（NASA）の関係を中心とした米国の軍民宇宙協力の歴史について報告があった。空軍が軍事、NASAが民生という役割分担のもと、軍民宇宙計画の重複回避の試みとして、国家宇宙政策・計画の策定や、大統領レベルを始めとしてさまざまなレベルでの体制・組織改革が行われてきたとの説明があった。今後の日本の宇宙政策にとって、軍民協力を、とくに防衛省と宇宙航空研究開発機構（JAXA）が、どのように進めていくかが重要であるとの指摘があった。

（2）情報収集、調査分析機能の在り方について

資料3「情報収集、調査分析機能の在り方について（案）」について、調査分析部会として了承された。

またこれをもって、情報収集、調査分析機能の在り方について一定の方向性を示すことができたことから、今後、宇宙政策委員会の承認を経て、本部会は発展的に解消することとされた。

以上